湯田の風

安心・安全な学校　全国に誇れる学校　地域とともにある学校

令和４年３月１６日
湯田中学校だより
第30号

〒753-0065　山口市楠木町7番1号
TEL　083-922-1189
FAX　083-922-1202
発行者　校長　末永　勝明
https://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/yuda-j/

第７３回卒業式　１１０名が巣立つ

先週の３月１０日（木）、春の気配が感じられる佳き日、本校第７３回卒業式を行いました。新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、１、２年生は代表生徒のみとし、またお招きするご来賓の方も限らせていただきました。規模や内容は縮小した卒業式でしたが、卒業生はみな凛とした姿で厳かな雰囲気のなかにも温かみが感じられるすばらしい式になりました。１１０名の卒業生は晴れやかな笑顔で３年間過ごした湯田中学校の学び舎を巣立っていきました。

卒業式で述べた校長式辞の一部をご紹介します。

◆皆さんにとって最後の話は、「なぜ学ぶか」というお話です。◆学校とは学ぶところです。では何を勉強するのか、もちろん、まず第一に、それは国語や数学などの教科があげられるでしょう。そして、教科の学習だけでなく、学校行事や生徒会活動、部活動をとおして学んだもの、たとえば人間関係づくりなど、多くのものを皆さんはこの湯田中学校で学んできたはずです。◆では皆さんはなぜ、何のために学んできたのでしょうか。高等学校へ進学するためですか？それとも将来の自分の夢を実現するためですか？それも確かに学ぶ理由にはなります。◆ですが、私たちが学ぶ理由はもっと別にあるように思います。◆少し古くなりますが「男はつらいよ」という映画の中で、寅さんこと、車寅次郎が学ぶ理由を語る場面があります。◆甥っ子の満男が寅さんに「大学へ行くのは何のためかなあ。」と尋ねます。寅さんは「決まってるでしょう。それは勉強するためです。」と答えます。すると満男はさらに「じゃ、何のために勉強すんのかな。」とききます。寅さんは答えます。「つまり、あれだよ。ほら、人間、長い間生きてりゃ、いろんな事にぶつかるだろう。なあ？そんな時、俺みてえに勉強してないヤツは、振ったサイコロの出た目で決めるとか、その時の気分で決めるよりしょうがない。ところが、勉強したヤツは自分の頭で、きちんと筋道を立てて、“はて、こういう時はどうしたらいいかな？”と

考える事ができるんだ。だからみんな大学行くんじゃねえか。だろ？」◆寅さんはまさに生きる力を言い換えています。学ぶ理由とは、これからみなさんが将来にわたって「困難なこと」や「迷い」に出会ったとき、自分の頭できちんと筋道を立て、自分の力で解決することができるようになるためなのです。◆ですから、生きている限り私たちは学び続けなければならないのでです。学びを止めない、生涯学び続ける力、それが生きる力ということになります。◆どうか、卒業生の皆さん、これからも学び続けてください。これからの湯田の街、山口、そして日本、さらには世界、その担い手は皆さんなのです。皆さんが未来を創るのです。

また、当日はテレビ局の取材が入りました。式後のインタビューに２人の卒業生が応じ、コロナ禍だからこそ気づいたことについて語っていました。

◇　あたりまえの毎日がとても大切だったんだなということに気づくことができて、なおさら３年生の１年間は特に大切にすることができたのでそこはよかったなと思います。

◇　外で遊んだり、授業をいっしょに受けたりする大切さとか、１日１日の大切さに気づくことができたので、高校生活でもがんばりたいと思います。

湯田の街にアート　　除幕式を行いました

３月１４日（月）、これまで長い時間をかけて取り組んできた「湯田の街にメッセージを届けようプロジェクト～壁面絵をとおして」の除幕式を行いました。ホテルかめ福の工事現場の囲い塀に「SDGs」と「コロナに負けない」をテーマにしたイラストアートが描かれています。

式には、本校の生徒会執行部、専門委員長、美術部の生徒、山口青年会議所の北条理事長さんをはじめとした皆さん、そして学校運営協議会委員の方々が出席しました。また、来賓として山口市長　伊藤　和貴　様、山口市教育委員会教育長　藤本　孝治　様、そしてイラストの制作に力を貸していただいた　りおた　様にもご臨席を賜り、盛大に除幕を行うことができました。直接関わってきた生徒はもちろんのこと、湯田中学校の生徒全員にとって、この作品の展示は「自分たちも湯田のまちづくりに参画しているのだ」という意識をもつことができるとてもよい機会になったと思います。地域の皆様、保護者の皆様もぜひ素晴らしい作品を一度ご覧ください。